

愛護団体、申し入れへ

「不用犬 買わないで」

飼えなくなった犬を市町村に持っていくと、一匹五百円がもらえる愛媛県の「不用犬買い上げ制度」に、動物愛護団体が「捨て犬を助長し、動物愛護の精神にもとる」と批判を強めて、近く、買い上げをやめるよう申し入れる。全国でただ一つの制度で、同県は「市町村と連携した取り組みで、野良犬が減った」と胸を張る。だが、飼い主の責任を厳しく問う流れの中で、「やっぱり変」との声が上がっている。

愛媛県

「無責任飼い主増える」

愛媛県が制度を導入したのは一九六八年。捨て犬を捕獲する技術員の確保が難しくなったのが背景。市町村に引き取られた犬は、県内四方所の保健所が回収して処分する。買い上げ費用の半分は、県が補助する。

「町中で技術員が犬を追いかけて回すのは、住民感情を損ねる。制度は動物愛護精神に基づいた方針。五百円は持参してくれた人の運賃」と、同県生活衛生課。

日本動物愛護協会（東京）の会田保彦事務局長は「動物愛護法の基本精神は、最後まで飼う終生飼養。不要になった犬に金を出せば、安易な捨て方が増える。無料引き取りか、逆に自治体が飼い主から手数料を徴収するのが主流」と批判する。

西山登志雄・東武動物公園長の話 ペットは死ぬまで飼わなければならない。やむを得ず手放すときの処分費用は飼い主が負担すべきだろう。愛媛の制度には「なんで」というのが正直な気持ちだ。

「不用犬買上所」のおりに入れた子犬
松山市二番町四丁目

